

1 『終末の徴』と現代—浜松市憲法を守る会行進の始め—

マタイによる福音書 24・1～14

この行進のヒントは私の心の内ではイザヤ書 20 章にある。アッシリアの王サルゴンがアシュドドの反乱を鎮圧した年（前 711 年）に先立って 預言イザヤに神の命令が下った。イザヤ 20・2。これはイザヤに命じられた行動預言であるが、やがてエジプトはアッシリアに粉碎され裸・はだしの奴隷とされる。祖国ユダよ、エジプトに依り頼むなかれ、ただ神のみ信頼せよという意味を告げたもので、エルサレム市内を 3 年間も歩き回ったと記されている、私の心の中ではこれがヒントとなって 憲法九条の ゼッケンやプラカードを持って神の御心に従おうとして始まったのである。神に祈って始まった働きは、イザヤのように 3 年では終わらず、すでに 2005 年 2 月で 457 回目（日数にして 38 年と 1 か月）（2019 年 12 月 8 日で 634 回、55 年 1 か月）続いたが、神からの中止の命令が出るまでは今後も続くであろう。しかしこのような平和行進、日本の平和も世界も実現しないことは百も承知である。それを承知しながら、地球環境問題や核兵器問題その他の終末の徴（しるし）を見る時、終末の足音がひたひたと迫りつつあるように聴こえて肅然とするのである。最終的には世界

を支配したもう神が、最後の審判を経て永久平和の神の国を実現してくださることを待ち望みつつ、人々の心に平和の大切さを諄々（じゅんじゅん）と訴えるのである。

イエスは悲惨な戦争（、暴動）が起きても「（そういうことは起こるに決まっているが、）まだ世の 終わりではない」と言われた。この世の歴史はまだ続く。神が終末を来たらせたもうまで、審判主にして救い主なるキリストを信じ、十字架の赦しを伝え、み言葉に従い隣人を愛し、地上の平和を作り出す働きをも静かに続けることが今日ほど大切な時はないと私は考えている。『復活』457～458 2005年2～3月

（注：武井が適時追加した）